6. 抽選処理解析

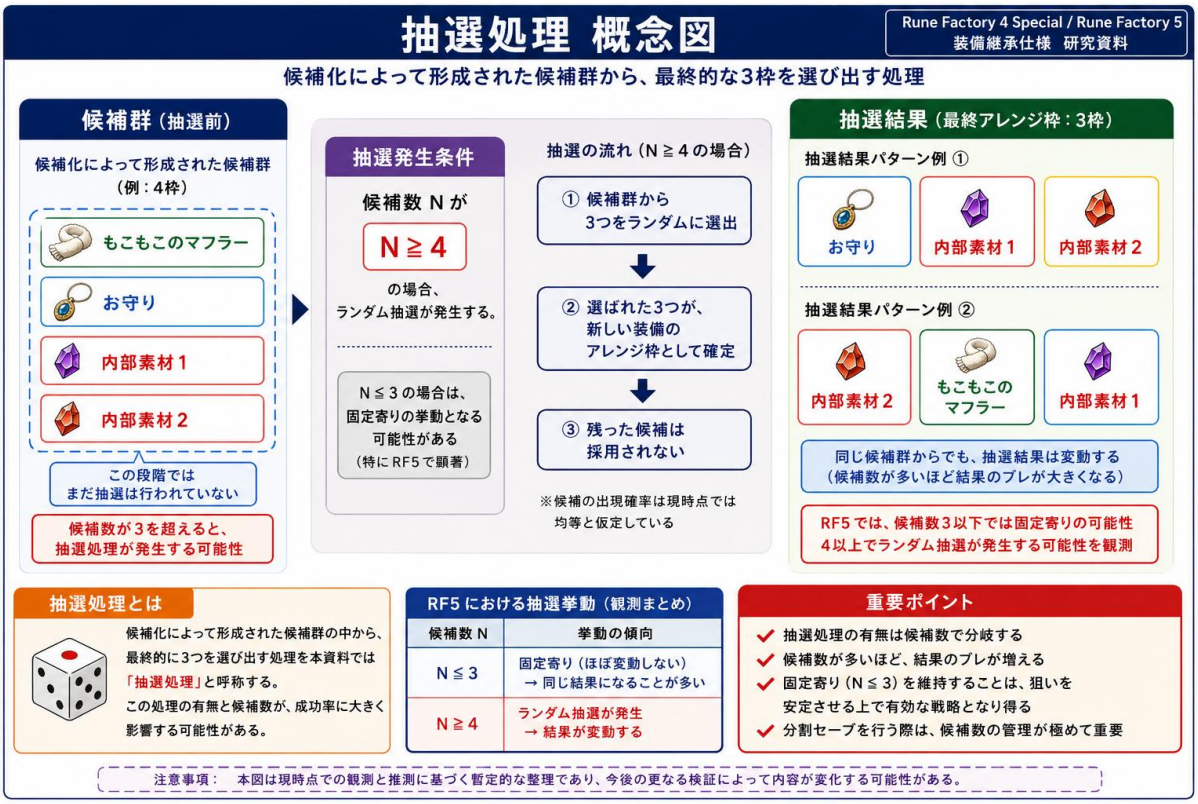
一行サマリー

候補化・再帰処理によって生成された候補群は、最終段階で抽選・並び替え・候補削減処理を受けている可能性がある。
少なくとも今回の観測範囲では、
RF4SP / RF5 の両作品において：
・候補順変動
・固定寄り挙動
・候補数増加時の成功率低下
・4枠超過時の不安定化
・オートアレンジ優先順位差異の可能性
などを確認している。
本章では：
「候補数N」
および
「候補優先順位」
を中心に、
・最終抽選処理
・RF4SP / RF5差異
・成功率変化
・境界値問題
を観測ベースで整理する。
なお、
内部乱数アルゴリズムや候補重み付けについては未解明部分も多く、
本章には暫定仮説を含む。

6-1. 候補群生成後処理

一行サマリー

候補化によって生成された素材群は、そのまま登録されるのではなく、内部で追加処理を受けている可能性がある。



4章・5章では：

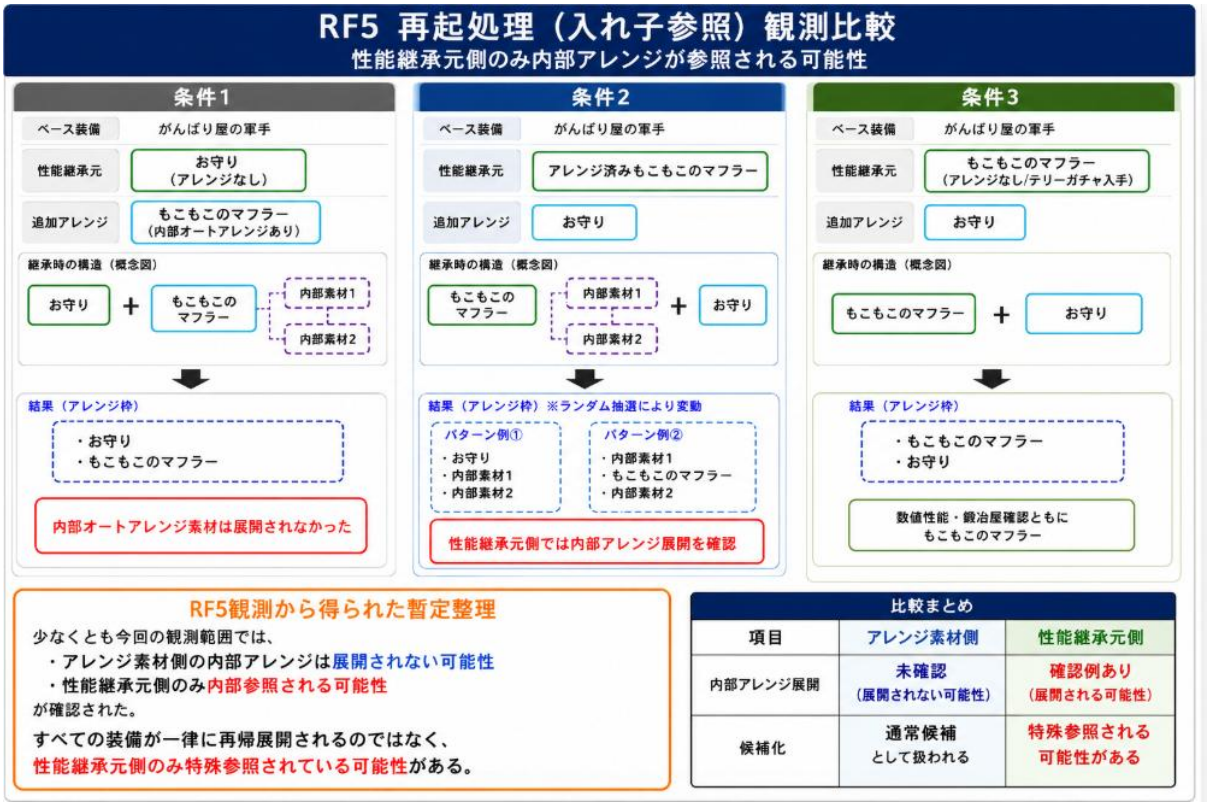
・自己混入

・内部候補化

・再帰参照

などによって、

本来投入していない素材が候補群へ追加される可能性を整理した。



しかし実際の完成装備では：
・候補順変動
・表示順変化
・RF4SP / RF5差異
・オートアレンジ押し出し
などが確認されており、
候補群生成後に：
・並び替え
・抽選
・候補削減
・優先順位処理
・再選出
などが存在する可能性がある。

特にRF5では：
候補数3以下では固定寄り挙動を示す一方、
4以上では不安定化する傾向を確認している。

また：
既存アレンジが存在する場合、
オートアレンジ候補が混入しないケースも確認されており、
候補間に優先順位が存在する可能性もある。

このことから：
「候補群生成」
と
「最終アレンジ決定」
は別工程である可能性が高い。

6-2. 候補数と成功率

一行サマリー

候補数増加によって、狙い素材が最終アレンジ枠へ残る確率が低下する可能性がある。

候補化・自己混入・再帰処理などによって候補群が増加すると、
抽選対象母数そのものが増加する。

例えば：
・継承元装備
・内部アレンジ
・自己混入候補
・オートアレンジ候補
などが追加された場合、
狙い素材が最終アレンジ枠へ選出される確率は低下する可能性がある。

例として8章に記載するメッシライト継承を行う場合の継承モデルと期待値計算を示す。

前提観測（最重要）
メッシライト継承とグリッタアレンジは両立する
まず前提として、メッシライト継承を行いながら、
アレンジ枠へグリッタ輝石を混入させること自体は可能であることを確認した。

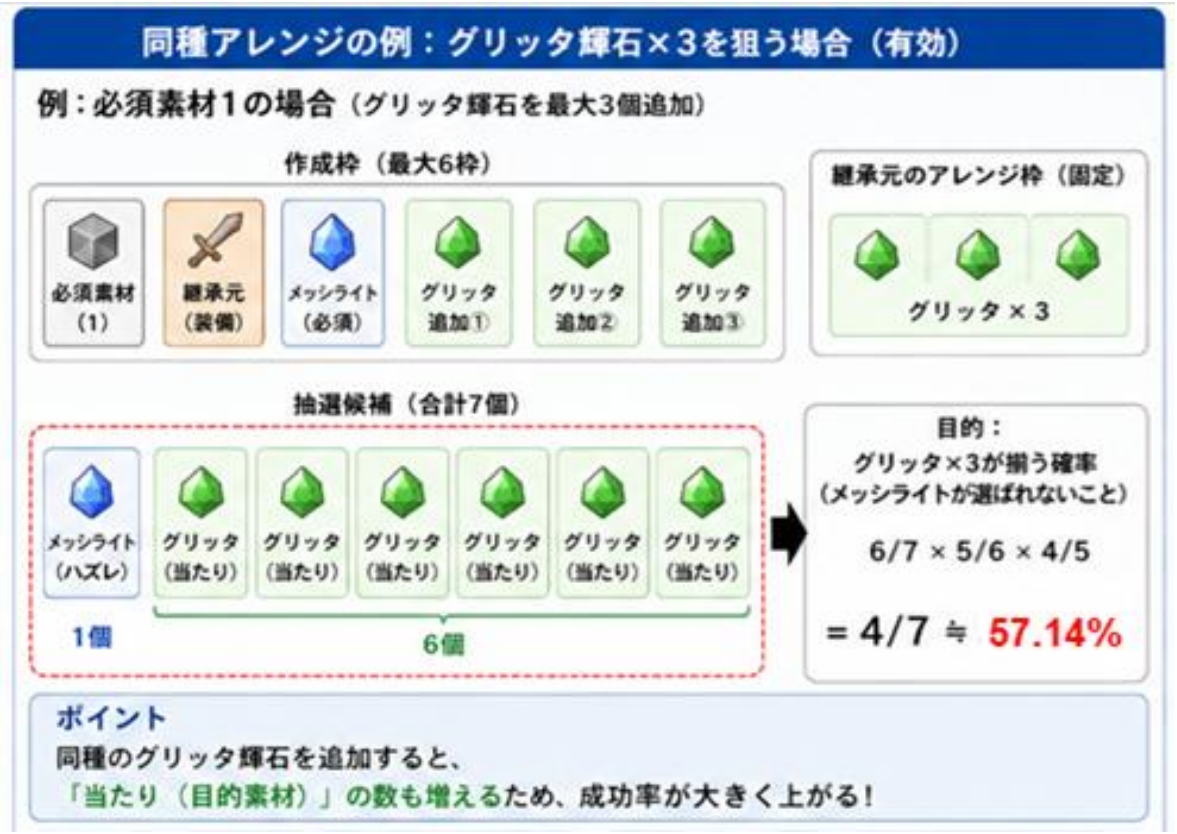


また、詳細は8章で述べるが、メッシライト鉱石+グリッタ輝石*3を一度に行い、
グリッタ輝石*3がアレンジ枠に入った場合、
メッシライト継承は成立することは確認している。

特に：
別種3種構成では、
候補数Nに対し：
1 / C(N,3)
に近い形で成功率が低下する可能性がある。



一方：
同種アレンジ素材を複数投入した場合、
当たり候補自体が増加するため、
候補数増加が必ずしも不利とは限らない。



成功率表

ベース必須素材数	追加可能グリッタ数	候補母数 N	推定成功率
1	3	7	約57.1%
2	2	6	約50%
3	1	5	約40%
4	0	4	約25%
5	不可	-	メッシライト継承不可

※ 別種3種構成を前提とした簡易期待値表
※ 均等抽選を仮定した近似値
少なくとも今回の観測範囲では：
・メッシライト継承
・グリッタ輝石複数投入
・同種母数操作
などで、
同種候補増加による成功率改善可能性を確認している。

また：
候補数増加は：
・試行回数増加
・リセット回数増加
・分割セーブ効率変化
などへも影響する可能性がある。

ただし：
・候補重み付け
　・均等抽選性
　・優先順位処理
などは未解析であり、
　現時点では期待値ベースの暫定整理として扱う。

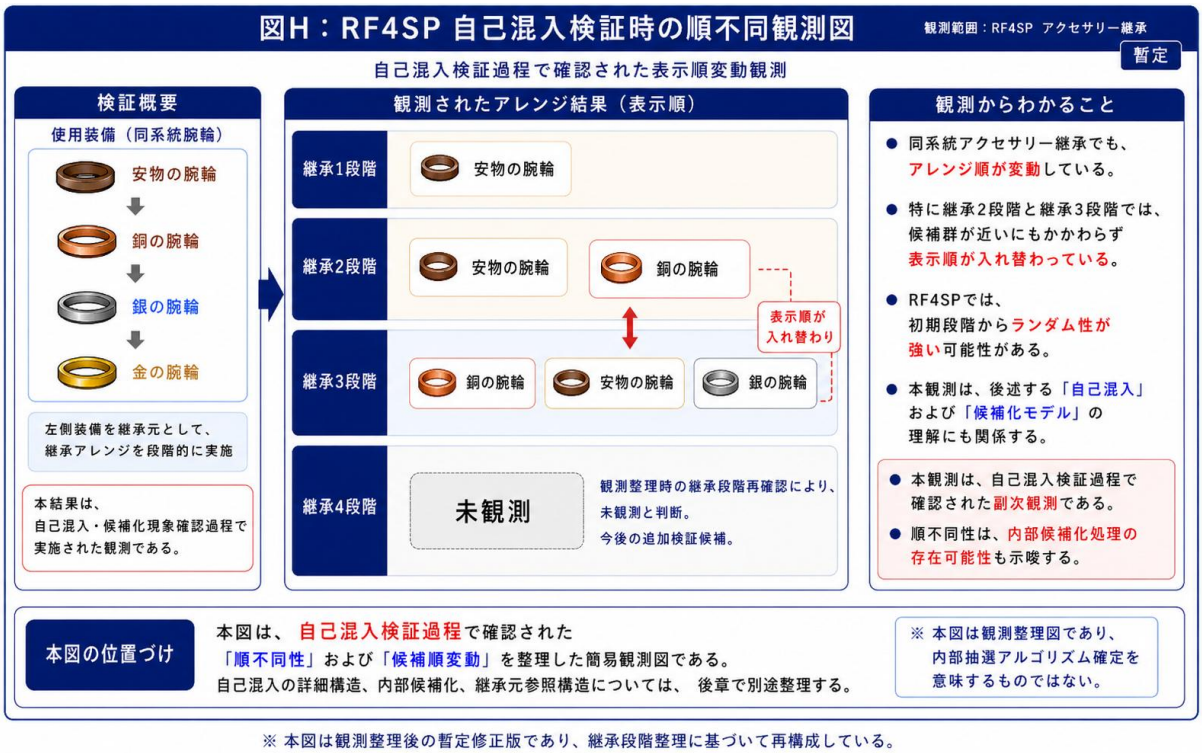
6-3. RF4SPランダム性

一行サマリー

RF4SPでは、比較的初期段階から順不同性や候補順変動が発生する可能性がある。

少なくとも今回の観測範囲では、
RF4SPアクセサリー継承において：
・候補順変動
・表示順入れ替わり
・順不同性
などを確認している。

特に：
金の腕輪系継承では、
継承段階が近い条件下でも：
・安物の腕輪
・銅の腕輪
・銀の腕輪
などの表示順変化を確認した。



※ 本図は観測整理後の暫定修正版であり、継承段階整理に基づいて再構成している。

また：
RF4SPでは：
継承元自己混入はRF5ほど強く確認されていない一方、
 比較的初期段階から順不同性が発生している可能性がある。

このことから：
RF4SPでは：
・内部シャッフル性
・表示順再決定処理
などが比較的早期から発生している可能性がある。

ただし：
・完全ランダム性
・均等抽選
・内部優先順位
などについては未解明であり、
 現時点では観測ベースの暫定整理として扱う。

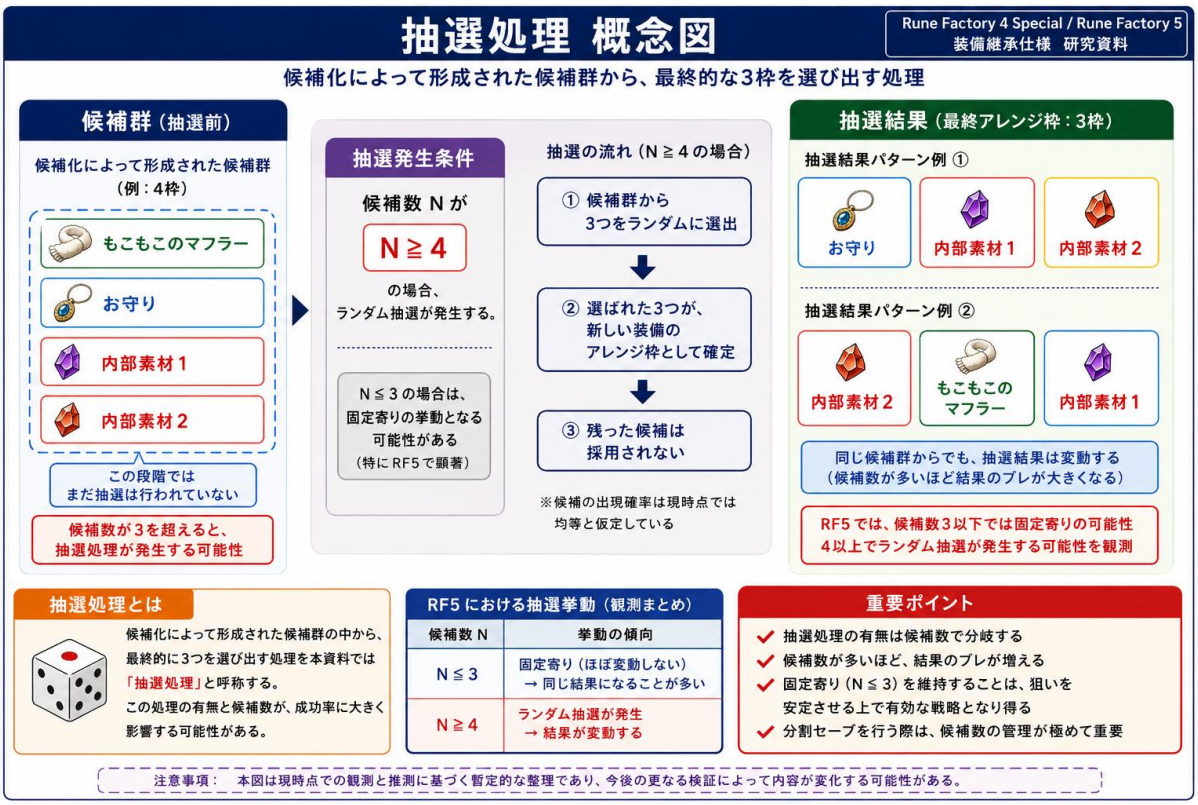
6-4. RF5固定寄り挙動

一行サマリー

RF5では、候補数が少ない段階では比較的固定寄り挙動を示す可能性がある。

少なくとも今回の観測範囲では、
RF5では：
候補数3以下の状態において、
・同一結果反復
・固定寄り表示順
・安定した抽選結果
などを確認している。

一方：
候補数4以上へ到達した場合、
・抽選結果変動
・表示順変化
・候補不安定化
などが発生する可能性がある。



また：
RF5では：
既にアレンジ枠が占有されている場合、
オートアレンジ候補が混入しにくい、
または混入しないケースも確認されている。



候補優先順位小表

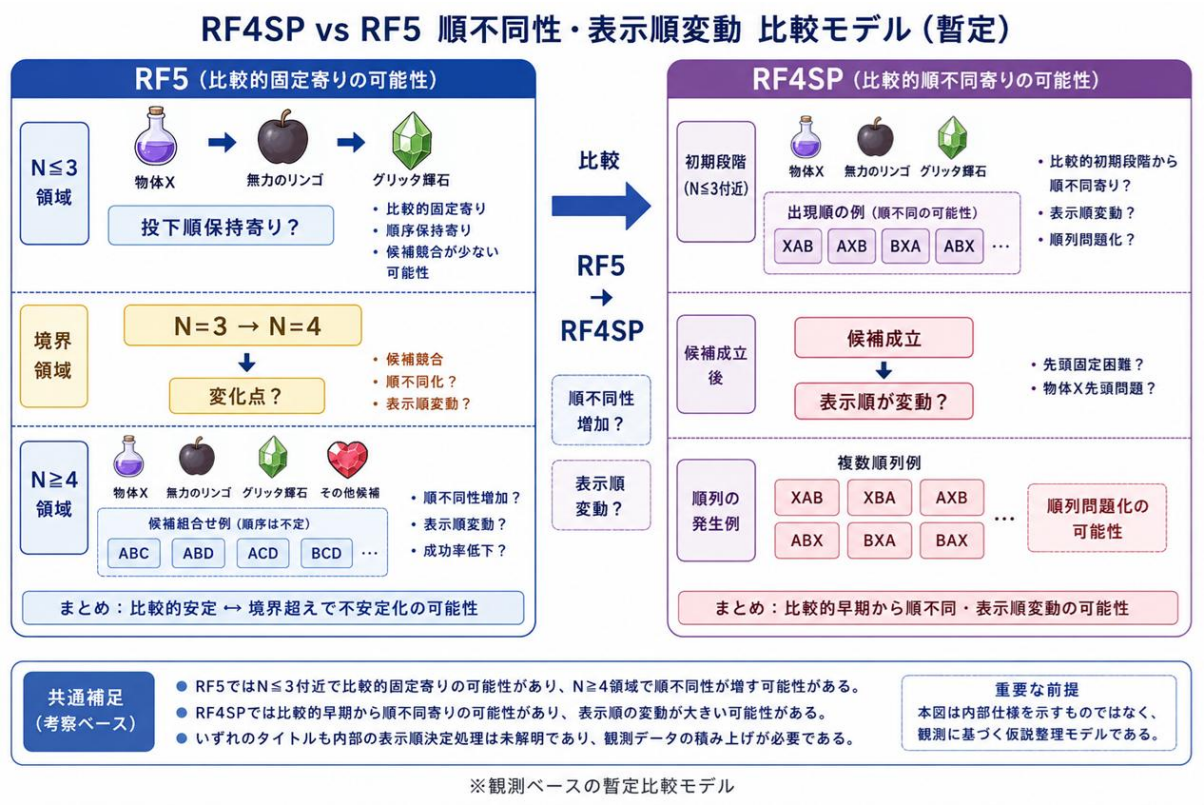
候補種別	観測傾向	暫定優先度	主な観測例	備考
既存アレンジ	維持されやすい可能性	高	既存枠存在時にオートアレンジ非確認	条件B / C系
性能継承元内部候補	再展開確認あり	高	RF5再帰比較図	特殊参照の可能性
通常追加素材	安定して候補化	中	一般継承全般	基本候補群
自己混入候補	条件依存で発生	中	RF4SP / RF5自己混入観測	発生条件未確定
オートアレンジ候補	空き枠時に混入しやすい可能性	低〜中	条件A系	押し出し発生の可能性
オートアレンジ内部素材	展開未確認ケースあり	低	フェザーブーツ系観測	再帰対象外の可能性
RF4SP順不同候補	並び順変動あり	未確定	金の腕輪順不同図	表示順処理未解明

注記案：
本表は観測ベースの暫定整理であり、
内部優先順位アルゴリズム確定を意味するものではない。

特に「既存アレンジ」「性能継承元内部候補」「オートアレンジ候補」の関係については、候補数・空き枠・継承位置など複数要因の影響を受ける可能性がある。

このことから：
RF5では：
「少数候補時は固定寄り」
である一方、
一定候補数到達後に：
・再抽選
・候補削減
・優先順位競合
などが発生する可能性がある。

ただし：
・完全固定
・重み付き抽選
・優先順位固定
などの内部仕様は未解析である。
ここまでの観測を踏まえ、
RF4SP / RF5間で見えている
抽選傾向差異を暫定整理する。



RF4SP / RF5境界比較表

項目	RF4SP	RF5	備考
初期段階の順不同性	比較的早期から確認	少数候補時は比較的固定寄り	金の腕輪系観測
候補数3以下	順不同性発生の可能性あり	比較的安定	RF5側で固定寄り傾向
候補数4以上	変動継続の可能性	不安定化が顕著	4枠超過時再抽選の可能性
表示順変動	確認あり	条件依存で確認	RF4SP側の方が顕著
自己混入傾向	観測あり	観測あり	発生条件は未確定
オートアレンジ影響	未整理部分あり	空き枠時に混入確認	RF5側で境界観測進行
候補優先順位	未解析	既存アレンジ優先の可能性	条件B / C系
境界値の見えやすさ	比較的不明瞭	3→4境界が比較的明瞭	RF5側の方が整理しやすい
抽選傾向	ランダム性強めの可能性	固定寄り→急変型の可能性	暫定観測
現状の解析進行度	順不同性中心	境界・優先順位整理進行中	RF5側の方が情報量多め

このことから、
RF5では候補数境界が比較的観測しやすい一方、
RF4SPでは初期段階から順不同性が発生している可能性がある。

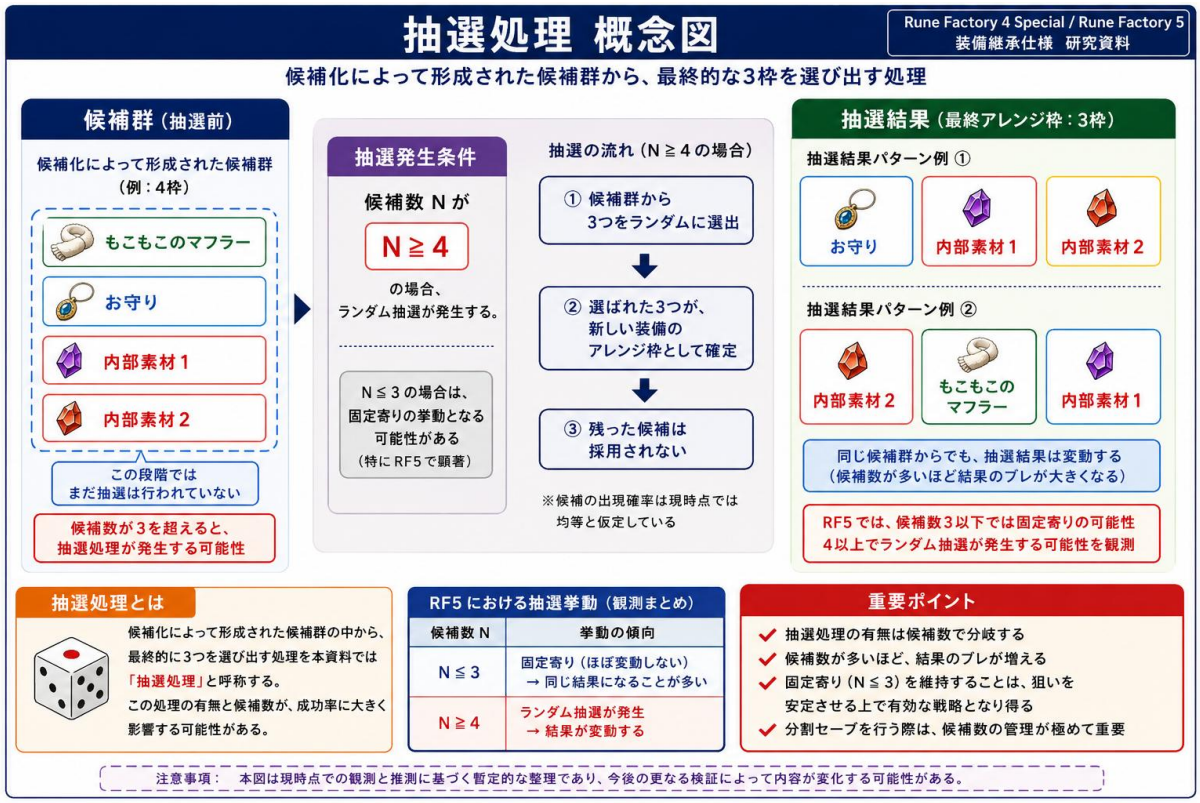
6-5. 4枠超過時再抽選

一行サマリー

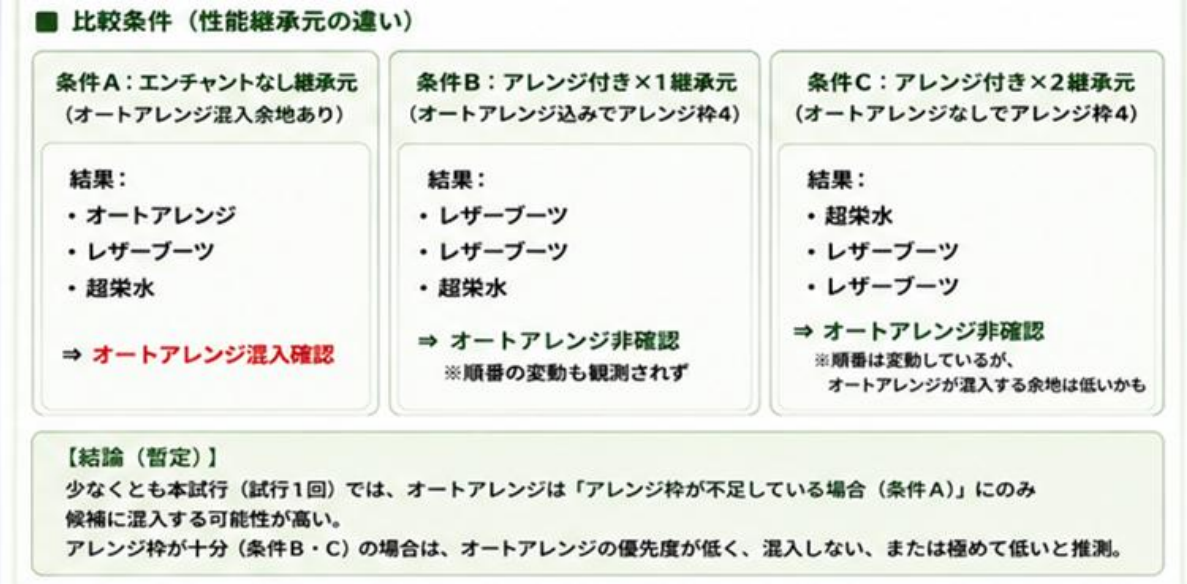
RF5では、候補数4以上到達時に再抽選的挙動や候補競合が発生する可能性がある。

RF5観測では：
候補数3以下では比較的安定していた継承結果が、
4以上へ到達した段階で急激に不安定化する傾向を確認している。

特に：
・自己混入
・内部候補化
・オートアレンジ
・継承元内部アレンジ
などによって候補群が増加した場合、
・抽選結果変動
・表示順変化
・候補押し出し
・オートアレンジ非混入
などが発生する可能性がある。



また：
既存アレンジによって枠が埋まっている場合、
オートアレンジ候補が混入しなかったケースも確認されており、



単純な：
「全候補均等抽選」
ではなく、候補優先順位や候補削減処理が存在する可能性もある。

詳細な境界条件については、6-4掲載図を参照。
本資料では便宜上：
「4枠超過時再抽選」
という表現を用いる。

ただし：
・4枠時点で再抽選が発生しているのか
・内部候補削減が存在するのか
・優先順位による押し出しなのか
については未解明である。

6-6. 境界値テスト

一行サマリー

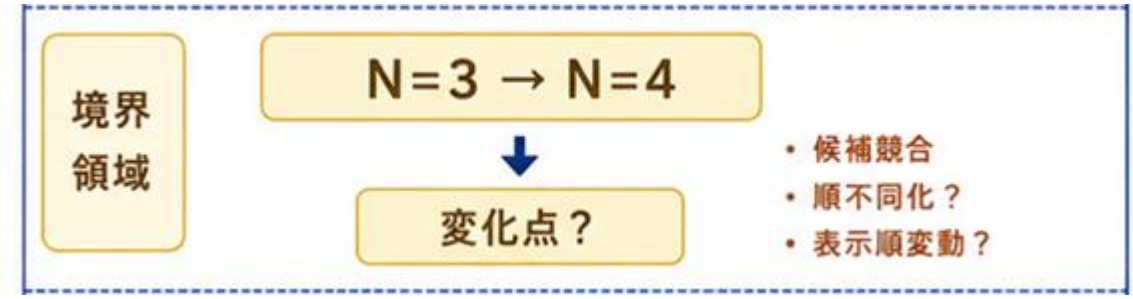
候補数境界付近では、抽選挙動や候補優先順位が大きく変化する可能性がある。

少なくとも今回の観測範囲では：

条件	観測傾向
候補数1〜3	比較的固定寄り
候補数4以上	不安定化開始の可能性
空き枠あり	オートアレンジ混入確認
既存アレンジ枠あり	オートアレンジ非確認
既存枠で4相当到達	候補押し出しの可能性

などを確認している。

特にRF5では：
候補数3→4付近で：
・表示順変化
・抽選揺らぎ
・候補競合
などが増加する可能性がある。



また：
単純な候補数だけでなく、
・既存アレンジ有無
・オートアレンジ有無
・内部候補優先順位
なども影響している可能性がある。

一方RF4SPでは：
RF5ほど明確な境界は確認されていないが、
比較的早期段階から順不同性が発生している可能性がある。

境界条件比較表

境界条件	観測された挙動	暫定解釈	注意点
候補数1〜3	比較的固定寄り	少数候補では抽選結果が安定しやすい可能性	RF5側で特に観測しやすい
候補数4以上	結果変動・順不同性が増加	4枠超過時に再抽選・候補削減が発生する可能性	内部処理は未確定
空きアレンジ枠あり	オートアレンジ混入を確認	不足枠を補う形でオートアレンジが候補化する可能性	条件A系
既存アレンジ枠あり	オートアレンジ非確認	既存アレンジが優先され、オートアレンジが押し出される可能性	条件B系
既存枠で4相当到達	オートアレンジ非確認＋順番変動あり	候補競合は発生するが、オートアレンジ優先度は低い可能性	条件C系
RF4SP側	初期段階から順不同性あり	RF5ほど明確な3→4境界ではなく、早期から表示順再決定が入る可能性	試行数不足
RF5側	N≤3は固定寄り、N≥4で不安定化	候補数境界の影響が比較的見えやすい可能性	境界値検証の中心

注記
本表は観測ベースの暫定整理であり、内部アルゴリズム確定を意味するものではない。
「候補数4以上」「空き枠」「既存アレンジ枠」の関係は、候補数だけでなく候補種別の優先順位にも影響される可能性がある。
ただし：
・候補数上限
・優先順位固定
・境界値閾値
などについては未解析であり、
追加検証が必要である。

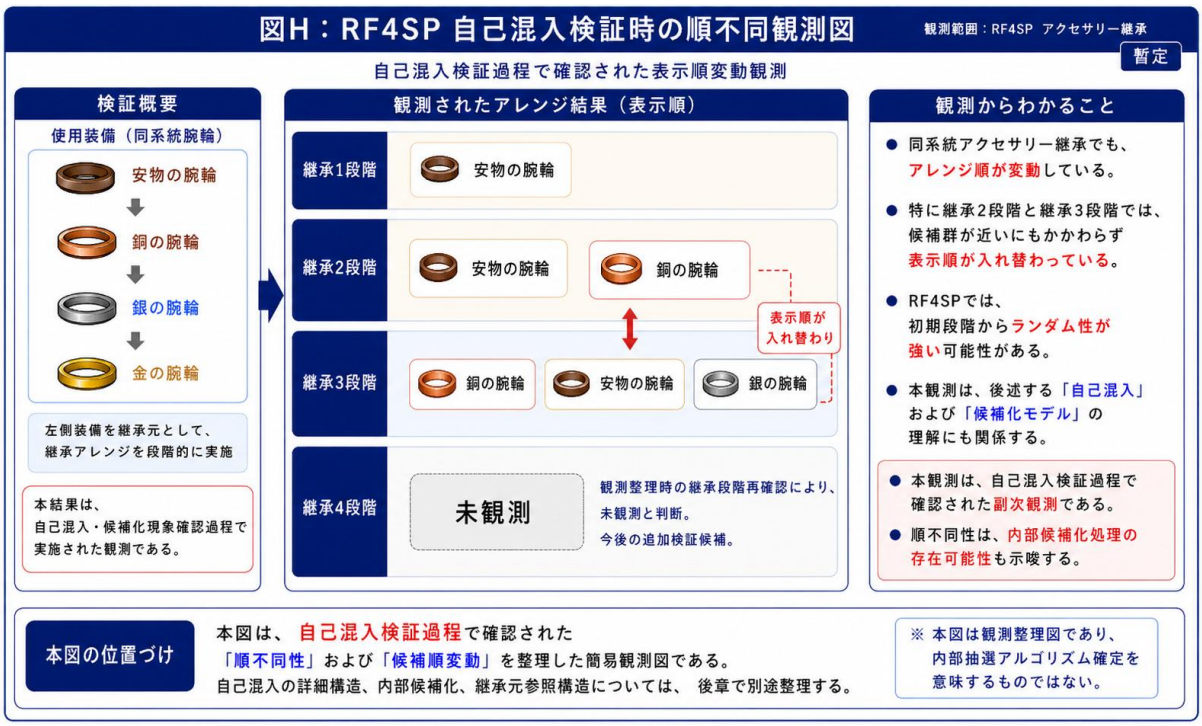
6-7. 並び順決定問題

一行サマリー

最終アレンジ表示順は、単純な投入順固定ではない可能性がある。

少なくとも今回の観測範囲では：
・候補順変動
　・表示順入れ替わり
　・順不同性
などを確認している。

特にRF4SPでは：
同一候補群と考えられる条件下でも、
　表示順変化が発生している可能性がある。



※ 本図は観測整理後の暫定修正版であり、継承段階整理に基づいて再構成している。

このことから：
最終アレンジ表示順は：
・投入順固定
・候補生成順固定
ではなく、
・抽選後シャッフル
・内部優先順位処理
・表示順再決定
などを経由している可能性がある。



また：
「候補抽選順」
と
「最終表示順」
自体が別処理である可能性も存在する。
さらに：
オートアレンジ候補の押し出し挙動などから、
 単純なランダム並び替えではなく、
候補種別ごとの優先順位処理が存在する可能性も考えられる。
ただし：
内部並び順アルゴリズムについては未解析であり、
 現時点では観測ベースの暫定整理として扱う。